

第10回山口県地震・津波防災対策検討委員会の議事概要

日 時：3月27日(金) 13:00～14:10

場 所：県庁10階 漁業調整委員会室

出席者：三浦会長、金折委員、羽田野委員、山内委員

- 議 題
- 1 日本海沿岸の津波浸水想定について
 - 2 地震動・地盤被害予測結果について
 - 3 日本海沿岸の津波避難対策について

■議事概要

(主な意見)

- 一般の方々には、県の津波浸水想定「津波水位」と気象庁の「津波の高さ」の違いや、「海拔」や「標高」といった言葉の意味について、整理した上で分かりやすく伝える必要がある。
- 道路などへの標識の設置等により、普段から津波について意識できるような工夫や、どちらに行ったら標高が高い方へ行けるかということが分かるような工夫が必要である。
- 市町は、津波ハザードマップの作成に当たっては、河口幅が30mより狭い河川については、津波の河川の遡上が考慮されていないことに注意する必要がある。
- 学校の教育現場で地震や津波を学ぶことが、親子での防災意識の醸成につながる。
- 瀬戸内海側では、コンビナートの企業が、防災についても地域と対話するレスポンス・ケアの取組を進めている。津波等に対する住民の不安を払しょくするためにも、県も一緒になって取組を応援して欲しい。
- 防災対策を考える上で、津波による水位の時系列変化をグラフでイメージすることが大切であり、公表している資料を自主防災組織等でしっかり活用していただきたい。